



関中央ロータリークラブ

2017-2018 WEEKLY REPORT

例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷通5-2-53 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 波多野 好文 **副会長** 佐藤 忍 **幹事** 長谷川 修 **クラブ会報委員長** 大藪 太

2017～2018年度国際ロータリー

イアン H.S. ライズリー会長



2017～2018年度関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦からのロータリー」

本日のプログラム 第1918回例会 2017年11月5日（日）

「森林整備例会」 / 担当 社会奉仕・環境保全・IA委員会

前例会の記録

第1917回 2017年10月19日（木）

「C. A 地区大会報告」 / 担当 会長・幹事

*ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

*会長あいさつ 波多野好文会長

先日の地区大会出席の皆様、どうもご苦労様でした。一部自家用車で行かれた方も見えましたが、バスにて大変楽しく、又夕方の宴会も料理



の量も多く豪華で、これも大変よく酒も進んだことを、ご報告申し上げます。今日は5名の方に報告をお願いしてありますが、ここで私がしゃべってしまうと大変困ってしまう方も見えると思いますので、この話はこれくらいにしたいと思います。

今日は皆さんの行って来た三重県について調べましたので話したいと思います。三重県知事は大会にも見えて歓迎の挨拶をされた、鈴木英敬さんで、1974年生まれ43歳でまさに青年知事です。奥様は元オリンピックシンクロメダリストの武田美保さんです。その三重県ですが、人口がおよそ180万人で全国47都道府県で22位・面積はおよそ5,7

70平方キロメートルで25位です。ちなみにわが岐阜県は人口がおよそ208万人で17位・面積は10,621平方キロメートルで7位です。しかし、先日発表された、2017年都道府県魅力度ランキングでは、三重県は30位に対して岐阜県は37位と少し水をあけられています。三重県の観光地で1番人気はやはり伊勢神宮で赤福餅も全国の土産ランキングで上位に入っています。又海岸線の長さも日本7位で、豊富な海の幸にめぐまれています。

地区大会が行われた伊賀市ですが、2004年11月に上野市と阿山郡伊賀町他、5町村が合併して誕生しました。人口は関市とほぼ同じの9万人です。通称伊賀上野というのは、東京の上野と混同するのを避けているためだそうです。伊賀忍者は特に有名で、最近外国からの観光客も多いそうです。また外に、俳人松尾芭蕉の生誕地としても有名で、黛まどかさんの俳句の講演はその関係かと、思います。

また、市長は挨拶をされましたが、岡本栄さんで1951年生まれの66歳ですが、元関西テレビのアナウンサーという異色の経歴の持ち主です。日航機墜落事故の時は空港からの中継にも登場したよう

です。こんな事、本当は行く前に調べて発表しておけば興味もわいてよかったです。後からになってしまい申し訳ありませんでした。

又、この土曜日には三重県の津市で第2回の財団の研修セミナーが開かれます。来年度補助金を使って事業を予定していますので、大変大切なセミナーとなります。伊佐地ガバナー補佐・西田ロータリー財団委員長と私で行って来たいと思いますのでどうかよろしくお願ひします。

*C. A 地区大会報告

伊佐地司君

地区大会の大まかなスケジュールについて報告させていただきます。

10月14日・15日に伊賀市文化会館で開催をされた地区大会に総勢15名で参加をしました。12:30から開会セレモニーとして新日本フィルハーモニー交響楽団4重奏と上野高校吹奏楽部による演奏があり、13:00より田山雅敏ガバナーによる点鐘で開会しました。歓迎の言葉を大会実行委員長の松本正博氏からいただき、来賓・特別招待者・特別出席者紹介、田山ガバナーの挨拶と続きました。その後、地区現況報告、会計報告、参加クラブ紹介があり、RI会長代理講演として、田中正規様の講演を拝聴しました。国際ロータリー会長イアンH.S. ライズリー氏からの話としてとして、①環境問題にも目を向けていることを示すために会員1名につき1本の植樹をする、②寄付金、奉仕活動時間を国際ロータリーに報告する、③会員基盤の多様性として会員増強、職業の多様性、会員基盤強化として女性や若い人の入会を促進する、といった3つの未来項目などを説明されました。続いて特別招待者の大韓民国RI第3600地区ガバナーの尹 熙沃 (ユン・ヒョク) 氏と中華民国RI第3510地区路竹 (ロチク) ロータリークラブ会長 呉 俊男 (ウ・チャンナン) 氏の挨拶を頂きました。少し休憩を挟み、甲府ロータリークラブ所属で2018年RI研修リーダー第2ゾーンの高野 孫左エ門氏が基調講演をされ、ロータリーの構造や課題、不易と流行について解りやすく説明されました。



その後、RI表彰、地区表彰、ロータリー財団表彰、米山記念奨学会表彰、田山ガバナー表彰（未来創造賞）と各受賞クラブの代表スピーチの後、ロータリー財団学友会代表スピーチとして三重大学学長 駒田 美弘氏が話をされました。続いて国際青少年受入れ交換学生、国際青少年派遣交換学生、ローターアクトクラブ代表、インターアクトクラブ代表、米山記念奨学会代表のスピーチがあり、ほぼ予定通り17:30頃に1日目は閉会となりました。その後の夜の話は割愛します。

2日目も新日本フィルハーモニー交響楽団による開会セレモニーが行なわれ、9:30より田山ガバナーの点鐘で始まり、上野東ロータリークラブ会長 森 正美氏によるホストクラブ会長挨拶、来賓・特別招待者・特別出席者紹介と続きました。来賓として鈴木 英敬三重県知事、岡本 栄伊賀市長が出席され、お二人から祝辞を頂戴しました。その後、参加クラブ紹介、ガバナー挨拶、RI会長代理アドレス、大会特別委員会報告及び大会決議採択と続き、大会決議案として第1号から第10号までが上程され決議されました。休憩の後、記念講演として、俳人 黛 まどかさんより「世界の中の俳句～芭蕉から現代まで～」と題して、世界で俳句を通して日本の文化を伝える活動体験談などの講演を拝聴しました。各種感謝状贈呈の後、次期への誓いとして、ガバナーエレクト 木村 静之 (きよゆき) 氏、ガバナーノミニー 辻 正敏氏が挨拶され、次期開催地発表、大会の鍵伝達が行なわれ、次期開催地クラブの岐阜加納ロータリークラブ 横山 文夫会長が挨拶をされました。最後に田山ガバナーが謝辞を述べられ、閉会・点鐘となりました。すぐに場所を移動して、大昼食会が開催されました。伊賀忍者特殊軍団のアトラクションで盛り上がり、伊賀牛のステーキと地酒に舌鼓を打ち、14時頃にすべてのプログラムが終了しました。

波多野篤志君

1日目14日プログラムの中で講演が2つありましたのでその内容について説明させていただきます。1つ目はRI会長代理 田中正規さ



んのお話です。田中さんはR I 2760 地区西尾RCに所属され、職業は西尾病院理事長・院長をしておられます。最初にイアンH. S. ライズリーRI会長の紹介がありました。今年度のテーマを「ロータリー：変化をもたらす」とし、私たちが活動を通じて、世界に、地域社会に、人々の人生に変化をもたらすことを呼び掛けています。長期の計画、持続可能な奉仕、すなわち継続性を重視しています。続きましてライズリー会長からの依頼項目6つを紹介されました。①ロータリアンは環境問題にも目を向けていることを示しなさい。ささやかなジェスチャーを示すことで、環境の持続可能性の認知度を上げて下さい②2017-2018年度を通じて、クラブが活動したことをロータリークラブセントラルを通じて国際ロータリーに報告すること③会員基盤の多様性について。民族、職業の多様性を大切にして下さい。また会員増強にはいろいろな要素がありますが、入り口を閉ざさず広く受け入れて下さい④高い倫理基準の維持。ロータリーの目的、職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすることに努めて下さい⑤ロータリー戦略計画。これは3つの優先項目からなっています。クラブのサポートと強化。人道的奉仕の重点化と増加。公共イメージと認知度の向上です。戦略計画を立て、それに沿って活動している地区やクラブは、より効果的に変化に対応し、未来に向けた計画を立てることが出来ます。戦略計画のあるクラブは会員の満足度が他よりも高く、クラブが充実していると感じる割合も高いことが調査で分かっていますので進めていって頂きたいです。⑥会長賞へのチャレンジをして下さいというお話をされました。

続きまして、2018年第2ゾーンRI研修リーダー高野孫左エ門さんのお話を聞きました。高野さんの祖父と父は二人ともロータリアンでした。生涯ロータリアンで棺の中にロータリーバッジをつけて入られたというぐらいのロータリアンだというお話でした。高野さんは自分をロータリー活動になぜ招き入れたのかとずっと考えておられました。遺品を整理するうち、書物の中に次の言葉があったそうです。

「奉仕とは、他者への働きかけであるように見えて、実は自分との戦いであり、結果として心の豊かさが与えられるものである。誰かのためにだけでなく、自分のために奉仕する」という書物がいくつもあったそうです。この言葉から思いつくのが「最も奉仕するもの、最も報いられる」(One Profit Most Who Serves Best)、「超我の奉仕」(Service Above Self)、つまりロータリーの標語です。

これは1911年ポートランドで開催された「全米ロータリークラブ連合会第2回大会」でフレデリック・シエルドンが演説の中で述べた一説を標語として承認されたものです。1950年デトロイトでの国際大会において、ロータリー標語として正式に承認され、1989年規定審議会において「超我の奉仕 (Service Above Self) が、私ごとではない無私のボランティア精神を最もよく表しているとの理由から、ロータリーの第一標語として採択されました。これが原点であり、入り口である出来事です。この二つの標語から生まれてくるさまざまな行動やそれを目指したプロセスがロータリーの理念の確信を示している。このロータリーの標語が奉仕の理想を示している二つの言葉だと改めて確認してください。

次にロータリアンに質問されました。ロータリークラブの会員とはどのような人か？ロータリークラブは何をしているのか？ロータリーとは？と問いかけられました。皆さんそれぞれの考えを答えられるようにしていただきたいと思います。

ロータリークラブの課題としてロータリーの目的は、意義のある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。時代や社会の環境変化を認識し、それに対応することにより、ロータリークラブの永続性を維持しようとしています。そのためには不易流行を見極め、多様な変革を実行することが求められているということです。ロータリーの基本としまして、ロータリークラブは単なる親睦団体ではなく、会員自ら、またクラブが地域社会にあって役に立つ・ためになる奉仕を実践する団体であると説明されました。次にロータリーの不易と流行です。ロータリーの不易とはロータリーの目的は、意義のある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、

これを育むことにあるということと、4つのテストこれをかえてはならないと説明がありました。流行としては、戦略計画、奉仕活動、R I会長テーマの行動部分が流行と説明されました。

ロータリーの認知度について説明があり、2011年の60%から2015年は75%に上がりました。これは良いことをしたら伝えなければ伝わらないということで、広報活動に努めてほしいと言っておられました。

あなたのクラブは元気ですか？目指す姿は明確ですか？と問われました。ロータリーをよく知ろう（原点の確認、変化の確認）、ロータリーを楽しもう（現状の認識）、ロータリーを繋げよう（行動開始、10年後のロータリーは・・・）最後に年度の足跡を残しましょうということで、「クラブ」も「地区」も会長賞の受賞を目指しましょう。そのために踏み出すべき第1歩は「世界を視る眼」を持つことが大切です。My Rotaryの登録、クラブセントラルへの登録をお願い致します。最後に自分達のゴールを明確に持ち行動しましょう。

石原妙生君

地区大会2日目について報告します。ホテルを出まして、大正や明治時代に建てられたオシャレな建物を見ながら会場へ向かい、新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏により開演されました。



来賓の挨拶では、鈴木英敬三重県知事は「歴史の認識」と「科学技術に敏感」であることが重要で、未来を見据え今日の前に有ることを一生懸命に生きる精神が大事であると話されました。田山ガバナーのテーマに関する内容でした。又、岡本栄伊賀市長は、サミットで出したお酒「半蔵」とか忍者や伊賀牛のPRをされ、伊賀牛は松坂牛よりうまいと自慢されていました。

さて二日目のメインは記念講演です。『世界の中の俳句』～芭蕉から現代まで～を題として俳人である「黛まどか」という方のお話でした。この方は、俳人として日本だけでなく韓国やフランスでも活動されている方で、北里大学をはじめ複数の大学の客員教授で、「引き算の美学」等、本も出筆され活躍され

て見えます。

俳句と言えば「古池や 蛙飛びこむ 水の音」の芭蕉の句が有名ですが、俳句とは5・7・5の17音から成る定型詩（ていけいし）で、世界最短だそうです。

俳句は、自然を読むとか命を読むと言われ、たった17文字であるため、「物をいわぬ文学」とも言われているそうです。まさに「引き算の文化」である。引き算の文化には「真の美」がある、俳句ばかりでなく、食・活け花・書道等文化を見直し、日本風の表現を大切にしなければいけないと言われました。

そんなことで、私も一句作ってみました。

『役終えて 安堵の笑顔 夏の夜』これは、今年度の総会後の懇親会での私の様子を表わした句です。どうでしょうか！

仕事をする時や、人生を考える時に「何が足りないか」を考えるのではなく、「何を引けばいいのか」を考えてみると視点が変わるかもしれません。私も試してみたいと思います。

最後に大会の感想ですが、昨年高山は「見せて・楽しませる」大会で、今年伊賀上野は「聞かせて・考えさせる」大会だった様に思いました。

小川糧司君

2日目の最後までしっかり参加してきました。初日に高野孫左エ門さんが基調講演されました。甲府RCで32歳に入会され、400年会社が続いているそうです。その時代において地域社会が望む仕事をすることによって会社を存続させると言われ、なるほどと思いました。私は型を作る仕事をしていますが、あと50年続かないような気がしています。今は型がなくても3Dプリンターにデータを入れれば金属でもプラスチックでも商品ができます。本当に素晴らしい時代です。時間はかかりますが、機械が24時間やってくれます。型がなければ品物はできないと思っていましたが、できるようになってしまったので、どんな仕事でも今の社会の状態からすると、どこかで変化するべきかもしれないと思いました。高野さんのお話では、石油が出たときに横浜に行き、石油を販売する契約をし、車が出来たときにトヨタに行って、地元で販売して供給する仕事を始



めたということで、その都度業態をかえてこられた
そうです。私も端境期なので参考にできたらと思っ
ています。

2日目の俳句の話ですが、日本人は物を直接言わ
ない文化だといわれます。俳句は季語があつて形が
ある。それが日本の俳句だそうですが、黛まどかさ
んはヨーロッパで指導をしてきたそうですが、ヨー
ロッパ人はなぜ形にはまってやるのだと疑問を持つ
ようです。日本人は余白の文化です。書道にしても
余白を楽しむ、余白があることによっていろいろな
想像ができます。

ヨーロッパでは俳句がブームだそうです。説明す
る時には、床運動に例えるそうです。四角いマット
の決められたぎりぎりのスペースで運動するので素
晴らしく、見ごたえがある。ところがマットがなけ
れば見ごたえはない。基調講演のお話を聞いて勉強
させて頂きました。私は、地区大会に行くようにな
ってから15~16年ほどになります。地区大会に参加
して頂くと勉強になっていいかと思えます。

高井良祐君

当クラブは最後の最後まで参加し
てきました。2日間で一番感動した
のは講演が終わった後の、交換学生
や韓国派遣学生の、たどたどしい日
本語での一生懸命なスピーチです。次世代を担う若
者達の言葉を聞かずに帰られた方がたくさんいらっ
しやり残念だと思いました。



石原妙生前会長も地区大会は親睦の旅行だとお話
されましたが、全員で参加して行けたらいいと思
います。同じ人の同じ話を聞いても受け取り方はぞれ
ぞれだと思えます。自分にヒットする所が必ずある
はずです。今回私が印象に残ったのは「障子をあけ
てみよ、外は広いぞ」という言葉です。自分の今や
っていることや生活も大事ですが、少し視野を広げ
てみるといろいろな世界が見えてくると思えます。

*出席委員会

会員数31名、本日の出席18名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長

先日の地区大会出席の皆様大変ご苦労様でした。発

表の方は宜しく申し上げます。今日は幹事・副幹事
欠席です。

・石原妙生君

昨日、関商工の体育祭に行つて来ました。聖火ラン
ナーが聖火台に点火する本格的で若いエネルギーが
いっぱいでした。

・伊佐地金嗣君

地区大会、大変ご苦労様でした。

・小澤重忠君

地区大会出席の皆さんご苦労さまでした。

18名のご投函ありがとうございました。

*メイクアップ報告

10/14, 15 地区大会 伊佐地金嗣君、伊佐地司君、石
原妙生君、小川糧司君、川上勉君、佐藤忍君、高井
良祐君、西田健一君、長谷川修君、波多野篤志君、
波多野好文君、古田育則君、山田文夫君、吉田和也
君

11/5 森林整備例会打ち合わせ 神谷秀幸君

<次例会の案内>

第1919回 2017年11月11日(土)

「長良川流域クリーン作戦例会」

担当：社会奉仕・環境保全委員会